

原子力科学研究所 総合訓練に係る事前面談

目次

| | |
|----------------------------------|---------|
| 1. 確認事項整理表 | P1～P7 |
| 2. 中期計画 | |
| 2.1 原子力科学研究所 防災訓練中期計画 | P8～P10 |
| 2.2 機構本部 防災訓練中期計画 | P11～P12 |
| 3. 訓練計画書 | |
| 3.1 令和4年度防災訓練計画書 | P13～P16 |
| 3.2 令和4年度防災訓練内容 | P17～P18 |
| 4. 評価資料 | |
| 4.1 評価チェックリスト | P19～P23 |
| 4.2 課題チェックリスト | P24 |
| 5. 訓練シナリオ | |
| 5.1 敷地図、施設概要 | P25～P26 |
| 5.2 訓練計画書等を踏まえシナリオに反映すべき事項 | P27 |
| 5.3 防災訓練想定概要 | P28～P33 |
| 5.4 発生事象状況確認シート | P34～P35 |
| 5.5 事象進展対策シート | P36～P43 |
| 5.6 訓練進展フロー | P44 |
| 6. レイアウト | |
| 6.1 原子力科学研究所 対策所レイアウト | P45 |
| 6.2 機構本部 緊急時対策室レイアウト | P46 |
| 7. 情報フロー | |
| 7.1 原子力科学研究所 情報フロー | P47～P56 |
| 7.2 機構本部 情報フロー | P57 |
| 8. 継続的改善スケジュール | |
| 8.1 原子力科学研究所 継続的改善スケジュール | P58 |
| 8.2 機構本部 継続的改善スケジュール | P59 |
| 9. 参考資料 | |
| 9.1 統合原子力防災ネットワークのTV会議における発話ポイント | P60 |

訓練事前面談時の確認事項整理表

□ : マスキング箇所 (シナリオに係る記載、個人情報等)

| 全般 | |
|---|--|
| ・ 中期計画上の今年度訓練の位置づけ | 中期計画参照 |
| ・ 今年度の訓練目的、達成目標、主な検証項目、実施・評価体制、訓練の項目・内容 | 訓練計画書参照 |
| ・ 評価基準 | 評価チェックリスト、課題チェックリスト参照 |
| ・ 訓練シナリオ | 訓練シナリオ資料参照 |
| ・ その他 | |
| — E R S S の使用 | 対象外 |
| — C O P 様式 | 訓練シナリオ資料参照 |
| — 即応C、緊対所レイアウト図 | 機構対策本部 (即応センター) 緊急時対策室、原子力科学研究所緊急対策室のレイアウト参照 |
| — E R C 対応ブース配席図、役割分担 | 機構対策本部 (即応センター) のレイアウト参照 |
| — E R C 書架内の資料整備状況 | 原子力科学研究所防災業務計画別表-12 参照 なお、「災害対策資料」を改訂し、訓練前までに再配備する。 |

| 指標1 情報共有のための情報フロー | |
|-------------------|---------------------------|
| ・ 情報フロー | 情報フロー参照 (前年度訓練時と変更なし。) |

| 指標2 E R C プラント班との情報共有 |
|-----------------------|
|-----------------------|

| | |
|-----------------------------|---|
| ・ E R C 対応ブース発話者の育成・多重化の考え方 | 育 成；マニュアルによる教育、良好事例の訓練ビデオ視聴、情報共有訓練を実施 多重化；E R C 対応者の育成計画に従い、統括者及び発話者を複数養成できるように取り組んでいる |
|-----------------------------|---|

| | |
|--|---|
| 指標 3 情報共有のためのツール等の活用 | |
| 3-1 プラント情報表示システムの使用（E R S S 等を使用した訓練の実施） | |
| ・使用するプラント情報表示システムの説明（実発災時とシステムの差異も説明） | 対象外 |
| 3-2 リエゾンの活動 | |
| ・事業者が定めるリエゾンの役割 | <ul style="list-style-type: none"> ・即応センターからの情報提供の補足説明 ・資料のコピー及び配布（訓練付与情報含む） ・即応センターの認識のずれ、説明内容が的を射ていない場合の助言 ・E R C からの質問対応 |
| 3-3 C O P の活用 | |
| ・C O P の作成・更新のタイミング、頻度 | 作成・更新のタイミング、頻度 <ul style="list-style-type: none"> ・事象進展対策シート及び発生事象状況確認シート（様式）は、平時から作成 ・発生事象状況確認シート：EAL 事象が発生し、状況を説明する都度 ・事象進展対策シート：事象の進展状況が分かり次第 |
| 3-4 E R C 備付け資料の活用 | |
| ・E R C 備付け資料の更新状況 | 「災害対策資料」を改訂し、訓練 1 週間前までに再配備する。 |

| | |
|---|--|
| 指標 4 確実な通報・連絡の実施 | |
| ①通報文の正確性 | |
| ・通報 F A X 送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記等があった際の対応 | ・通報 FAX 送信前の通報文チェック体制： F A X 文作成担当者作成後、副原子力防災管理者 を中心として現地対策本部 |

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 発出したEALが非該当となった場合の対応 ・ 通報に使用する通信機器の代替手段 | <p>内で内容、誤植、記載漏れの有無を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通報文に誤記等があった際の対応： 次のFAXに誤記等の状況を下線等で示し送信、説明する。 ・ 発出したEALが非該当となった場合の対応： 機構対策本部ERC対応ブース発話者が、ERC TV会議上でEALが非該当となった旨発信する。現地対策本部からも続報により連絡する。 ・ 通報に使用する通信機器の代替手段： 優先順位 1) 所内の代替FAX 優先順位 2) 衛星FAX 優先順位 3) 機構対策本部又は支援本部のFAX（原子力科学研究所から電子データで提供） |
| <p>②EAL判断根拠の説明</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ EALの判断根拠の説明方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「発生事象状況確認シート」を活用してEALの判断根拠を説明する。 |
| <p>③10条確認会議等の対応</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 10条確認会議、15条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構対策本部副本部長： <input type="text"/> |
| <p>④25条報告</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 25条報告の発出タイミングの考え方 ・ 訓練事務局側が想定する、今回訓練シナリ上の25条報告のタイミング、報告内容（発生事象と対応の概要、プラント状況、放出見通し/状況、モニタ・気象情報など）、回数（訓練シナリオ中にも記載） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 考え方：事象対応やプラント状況について、情報が整理された段階 ・ タイミング：①事象拡大性の判断後、②EAL非該当判断後、③拡大防止措置の実施及び措置状況の確認後 ・ 報告内容：発生事象の状況と進展予測、プラント状況、応急措置の対応状況、施設の放射線情報、環境放射線等モニタリング情報 ・ 回数：<input type="text"/> |
| <p>指標5 前回までの訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する | <p>課題チェックリスト参照</p> |

| | |
|---|------------------------|
| <p>改善策が有効に機能するものであるか検証できる計画（訓練実施項目、訓練シナリオ等）となっていること、評価項目、評価基準が設定されていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施前に、訓練時における当該改善策の有効性を評価・確認の方法（例えば、訓練評価者が使用する評価チェックリスト（改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの））が作成されていること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練、他事業所の訓練で対応している場合は、その検証結果 | 該当なし |
| <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の訓練で課題検証を行わない場合にあつては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況の説明。また、令和4年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いこと | 今年度訓練にて、昨年度訓練課題は全て検証する |

| | |
|---|---|
| 指標6 シナリオ非提示型訓練の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・開示する範囲、程度（一部開示の場合、誰に／何を開示するのか具体的に記載）及びその設定理由 | <p>プレイヤーに対してシナリオ非提示型訓練。 訓練のコントロールに関わる要員をコントローラとして設定</p> |

| | |
|---|--|
| 指標7 シナリオの多様化・難度 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・発災を想定する施設（複数又は全施設） | <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉施設（1/9施設）でAL以上、使用施設及び廃棄物埋設施設（0/10） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・訓練シナリオのアピールポイント | <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> |

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・能力向上を促せるような実効性のある事故シナリオか ・原子力災害の発生又は拡大の防止のために行う応急措置として実施する事故対処の能力向上に資する現場実働、プラント状態の把握を困難とする想定等、実効性を高める工夫が図られているか ・場面設定等 発災を想定する施設数、EAL判断状況（数や密度）、発生事象の深刻度、発災原因（自然災害、機器故障など）、プラント状態、場面設定（時間、場所、気象、防災要員の体制、資機材の状態、計器の故障、人為的なミス、オフサイトセンターを想定した要員派遣と支援要請等への対応などプラント以外の状態）、これら要因の複数組み合わせ、シナリオ上の判断分岐となるポイントやマルファンクションの数、マルチエンディング方式の採用など ・訓練プレーヤへ難度の高い課題をどのように与えているか | <div style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> |
|--|--|

| | |
|--|---|
| 指標 8 広報活動 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・評価要素①～④それぞれについて、対応、参加等の予定 | <ul style="list-style-type: none"> ①ERC 広報班と連携したプレス対応：実施 ②記者等の社外プレーヤの参加：他拠点訓練にて実施済み（JAEA もんじゅ訓練） ③模擬記者会見の実施：実施 ④情報発信ツールを使った外部への情報発信：模擬 HP への掲載を実施 |

| | |
|--|---|
| 指標 9 後方支援活動 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・評価要素①～③それぞれについて、具体的活動予定（特に、実動で実施する範囲） ・一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせ一連の後方支援活動の訓練を実施する場合は、その内容 | <ul style="list-style-type: none"> ①原子力事業者間の支援活動 ：大洗研究所から支援される資機材の受入を実施（実働） ②原子力事業所災害対策支援拠点との連動 ：支援拠点として機構本部駐車場を立ち上げ、大洗研究所から支援される資機材の一時受け入れを実施（実動） ③原子力緊急事態支援組織との連動 ：櫛葉遠隔技術開発センターへ遠隔資機材要請（総合訓練では支援要請のみ。実動を伴う活動については個別訓練 11/18 にて実施済） |
| 指標 10 訓練への視察など | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・他原子力事業所への視察（実績、視察計画） | 実績：10/25 九州電力株式会社川内原子力発電所@統合 NW |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自社訓練の視察受け入れ（即応 C、緊対所それぞれの視察受け入れ可能人数、募集締め切り日） | ・統合防災 NW での視聴を受け入れる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ピアレビュー等の受け入れ（受け入れ者の属性、レビュー内容等） | 防災関連のコンサルティング会社のピアレビューを受け入れ、訓練の課題抽出を行う。 |
| 指標 11 訓練結果の自己評価・分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・問題点から課題の抽出 ・原因分析 ・原因分析結果を踏まえた対策 | 訓練モニタを配置し、その評価結果から課題の抽出を行う。訓練報告書において抽出した課題について、原因分析及び対策の検討を行う。 |
| 指標 12、13 訓練参加率 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業所（原子力科学研究所）の参加予定人数（うち、コントローラ人 | ・未定 |

| | |
|--|-------------------------|
| 数) ・即応センターの参加予定人数（うち、コントローラ人数） ・リエゾン予定人数 ・評価者予定人数 | ・未定 ・4～5名予定 ・4名程度 |
|--|-------------------------|

| | |
|---|---|
| 備考： | |
| ・現場実動訓練の実施内容 ・事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説明 | ・実施状況：総合防災訓練で実施 <input type="text"/> <input type="text"/> ・想定している主要な事象について、あらかじめ訓練シナリオを開示しているコントローラが訓練をコントロールする。 ・マルチファンクション付与： <input type="text"/> ・連携状況：発災現場、中央制御室、緊急対策室、即応センター ・他事業者評価：なし |
| ・中期計画見直し | 別途、各資料参照 ・機構大中期計画作成方針：令和4年6月10日策定 ・機構対策本部中期計画：令和4年8月2日策定 ・原子力科学研究所中期計画：令和4年12月14日策定 |

■新型コロナウイルス感染症対策について

○即応センター、現地対策本部

- ・マスク着用、衝立等の設置及び室内換気の飛沫防止対策を行った状態において、訓練を実施する。

原子力科学研究所原子力防災訓練中期計画（令和4年度～令和6年度）

原子力科学研究所において、原子力災害発生時に原子力防災組織が有効に機能するよう対応能力の向上を図るため、機構大中期計画作成方針を踏まえて中期計画を策定し、計画的な訓練を実施する。

1. 今期中期目標（目指すべき姿）

複数施設同時発災や複数拠点同時発災、EAL事象を含む複数事象発生、マルファンクション等を組み合わせてシナリオの高度化又は多様化を図った状況においても、現場は災害応急活動（情報共有含む）を実施できるとともに、現地対策本部は機構内外への情報共有ができること。

2. 年次計画

シナリオ非提示型として、中期目標のステップアップを図れるよう各年度の訓練テーマを以下のとおり設定する。なお、訓練で抽出された課題の改善策は、次回訓練で有効性を確認する。

| | |
|-------|---|
| 令和4年度 | <ul style="list-style-type: none">・2拠点同時発災時の情報共有における課題の抽出・EAL事象を含む複数事象発生時における現場での災害応急活動と現地対策本部での機構内外への情報共有の習熟・要職者の一時不在時における代行者の対応・原子力規制庁緊急時対応センター（ERC）対応に係る活動の習熟 |
| 令和5年度 | <ul style="list-style-type: none">・2拠点同時発災時の情報共有の習熟（継続確認）・EAL事象を含む複数事象発生時における現場での災害応急活動と現地対策本部での機構内外への情報共有の習熟（継続確認）・要職者の一時不在時における代行者の対応等・ERC対応に係る活動の習熟（継続確認） |
| 令和6年度 | <ul style="list-style-type: none">・複数施設同時発災、複数のEAL事象が発生した状況における現場での災害応急活動と現地対策本部での機構内外への情報共有の習熟・要職者の一時不在時における代行者の対応等・ERC対応に係る活動の習熟（継続確認） |

3. 訓練項目

以下の項目を基本とし、必要に応じて訓練項目を追加する。

- ・要員参集訓練
- ・情報共有訓練
- ・応急措置訓練
- ・プレス対応訓練
- ・通報訓練

- ・避難訓練
- ・緊急時環境モニタリング訓練
- ・救護訓練

4. 評価

各年度における訓練が終了後、中期目標の達成状況の評価を実施する。

以上

訓練評価結果

・各年度訓練の実施結果

| | 実施結果 |
|-------|-------------------|
| 令和4年度 | 令和4年度の訓練実施後に記載する。 |
| 令和5年度 | 令和5年度の訓練実施後に記載する。 |
| 令和6年度 | 令和6年度の訓練実施後に記載する。 |

・今期中期目標に対する評価

| |
|-------------------|
| 令和6年度の訓練実施後に記載する。 |
|-------------------|

機構本部原子力防災訓練中期計画（令和4年度～令和6年度）

機構本部の緊急時対応組織が原子力災害発生時に有効に機能することを確実にするため、機構大中期計画作成方針を踏まえて機構本部の中期計画を策定し、計画的な訓練を実施する。

1. 今期中期目標（目指すべき姿）

大規模な自然災害の発生を想定し、複数拠点（2拠点）で原子力災害が発生した場合においても、原子力施設事態即応センターが情報を集約して原子力規制庁緊急時対策センター（ERC）に対して提供できること。

2. 年次計画

シナリオ非提示型として、中期目標のステップアップを図れるよう各年度の防災訓練における訓練テーマを以下のとおり設定する。

| | |
|-------|---|
| 令和4年度 | ①「複数拠点発災時の情報共有体制に係る課題の抽出」 2拠点での原子力災害発生 ②「ERC対応に係る統括者及び発話者の習熟」 統括者及び発話者の力量向上、新規選任者の育成 |
| 令和5年度 | ①「複数拠点発災時の情報共有体制の確立」 2拠点での原子力災害発生（令和4年度訓練より多様性を図ったシナリオの設定） ②「ERC対応に係る統括者及び発話者の習熟」 統括者及び発話者の力量向上、新規選任者の育成（継続実施） |
| 令和6年度 | ①「複数拠点発災時の情報共有体制の習熟」 2拠点での原子力災害発生（令和5年度訓練より多様性を図ったシナリオの設定） ②「ERC対応に係る統括者及び発話者の習熟」 統括者及び発話者の力量向上、新規選任者の育成（継続実施） |

訓練テーマ①の複数拠点同時発災時の対応については、以下の拠点訓練にて検証する。

令和4年度：原子力科学研究所、核燃料サイクル工学研究所

令和5年度：原子力科学研究所、大洗研究所

令和6年度：核燃料サイクル工学研究所、大洗研究所

訓練テーマ②のERC対応者の習熟については、各拠点訓練にて検証する。

なお、訓練テーマ①、②を達成するために、防災訓練前に必要な教育・訓練を実施する。

3. 訓練項目

以下の項目を基本とし、必要に応じて訓練項目を追加する。

- ・ 機構内及び ERC との情報共有訓練
- ・ 原子力事業所災害対策支援拠点及び原子力緊急事態支援組織との連携訓練

4. 評価

各年度における訓練が終了後、中期目標の達成状況の評価を実施する。

以上

令和4年度原子力科学研究所原子力防災訓練（総合訓練）について

1. 訓練目的

本訓練では、原子力防災訓練中期計画に基づき、原子力災害対策特別措置法の対象の2拠点の施設において緊急時活動レベル（以下「EAL」という。）事象の発生を想定し、原子力災害が発生した時の原子力防災組織が有効に機能することを確認する。また、前年度から改善を図った事項の有効性も確認する。

2. 達成目標

（1）現地対策本部

- ① 2拠点同時発災時の情報共有における課題を抽出すること。
- ② EAL事象を含む複数事象発生時における現場での災害応急活動と現地対策本部での機構内外への情報共有の習熟を図ること。
- ③ 要職者の一時不在時における代行者の対応の習熟を図ること。
- ④ 原子力規制庁緊急時対応センター（ERC）対応に係る活動の習熟を図ること。
- ⑤ 前年度訓練の課題に対する改善策の有効性を確認すること。（課題チェックリスト参照）

（2）機構対策本部

- ① 複数拠点発災時の情報共有体制に係る課題を抽出すること。
- ② 機構対策本部のERC対応ブース¹の統括者及び発話者の対応について習熟が図られること。
- ③ 前年度訓練の課題に対する改善策の有効性を確認すること。（課題チェックリスト参照）

3. 主な検証項目

（1）現地対策本部

- ① 現地対策本部は、機構対策本部が他拠点と機構TV会議システムを使用している場合において、情報の緊急性を考慮し、緊急時の割込みによる機構TV会議システムを用いた情報共有、またはホットラインを通じた情報共有ができること。
- ②-1 事故現場指揮所は、プラント情報等を集約し、「発話ポイント²」を意識して現地対策本部に情報共有するとともに、事故現場責任者の指示に従い、応急措置の対

¹ 統合原子力防災ネットワークシステムを介してERCと情報共有するための専用ブース

² 報告内容のポイントを整理した発話例

応を行えること。

- ②-2 現地対策本部は、「発話ポイント²」を意識して、現場からのプラント情報等の集約、機構対策本部への情報共有ができること。
- ③ 原子力防災管理者が一時不在の場合でも、代行者が現場からの情報により発災状況を把握し、EAL事象の該当判断が的確にできること。また、今後の事象進展状況を考慮した復旧措置を指示できること。
- ④ 現地対策本部のERC対応者は、現地対策本部内の情報の収集・整理を行い、ERCへの情報提供に備えることができること。また、ERCからの質問や機構対策本部からの要請があった場合、または補足説明等が必要と判断した場合は、災害対策資料等を用いて説明ができること。
- ⑤ 前年度訓練の課題に対する改善策が有効に機能すること。

(2) 機構対策本部

- ① 機構対策本部は、複数拠点発災時に重要度（発生している事象の重大性、進展性）を踏まえて、機構TV会議システム上での情報共有を優先する拠点、ホットライン等での情報共有とする拠点とを選別し、情報収集することができること。
- ② 機構対策本部ERCブースの統括者及び発話者が連携し、「発話ポイント」を意識したERCとの情報共有ができること。
- ③ 前年度訓練の課題に対する改善策が有効に機能すること。

4. 日時

○令和5年2月21日（火）13：15～16：00（予定）

5. 実施場所

- 原子力科学研究所
- 機構本部（原子力施設事態即応センター）

6. 訓練想定

(1) 事象発生時間帯

○平日勤務時間帯を想定（訓練時間は当日実時間で進行）

(2) 訓練対象施設

○JRR-3

(3) 事象想定

警戒事象に該当する地震の発生を起点として、運転中のJRR-3が停止するとともに、警戒事象になり、施設敷地緊急事態及び全面緊急事態に進展する原子力災害を想定する。

7. 訓練項目

【総合訓練】

(1) 現地対策本部における訓練

- ① 要員参集訓練
- ② 情報共有訓練
- ③ 応急措置訓練
- ④ プレス対応訓練

(2) 機構対策本部における訓練

- ① 機構内及びE R Cとの情報共有訓練
- ② 原子力事業所災害対策支援拠点及び原子力緊急事態支援組織との連携訓練

【個別訓練】

- ① 通報訓練
- ② 避難訓練
- ③ 緊急時環境モニタリング訓練
- ④ 救護訓練

8. 訓練型式

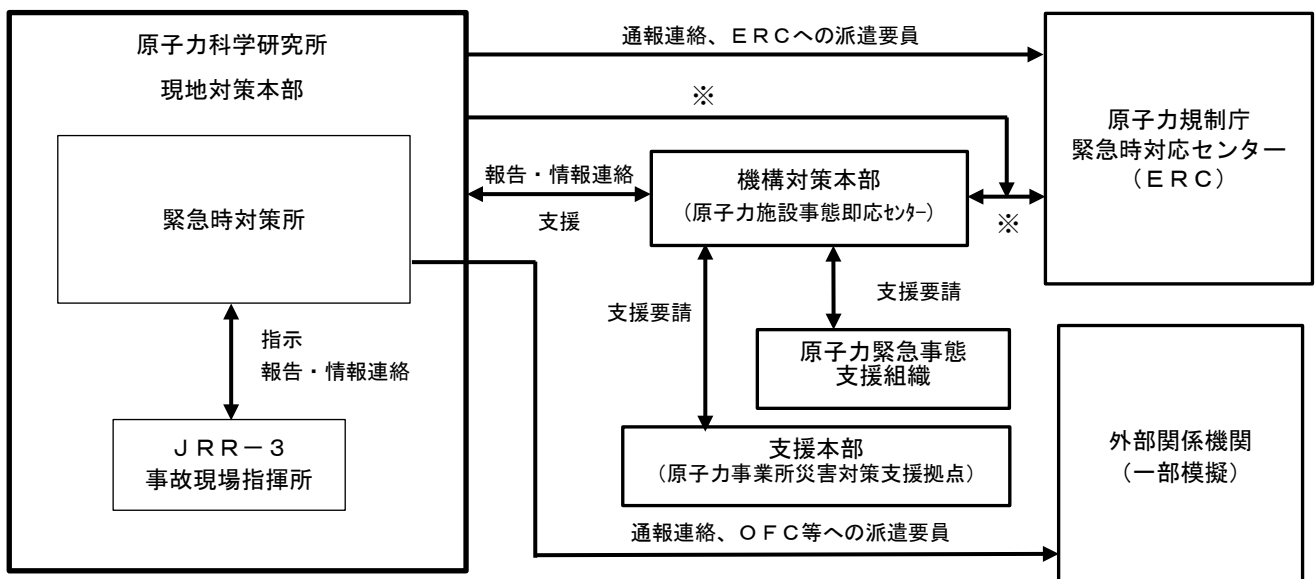
- シナリオ非提示型

9. 訓練の進行

- コントローラからの条件付与

10. 実施体制、評価体制

<実施体制>



※統合 NW システムに接続された TV 会議システムによる報告・情報連絡

<評価体制>

- 評価するためのチェックリストを作成し活用する。
- 原子力科学研究所外の拠点から選出された訓練モニタ及び外部機関の有識者により、第三者の視点から課題の抽出を行う。
- 訓練参加者による反省会等を通して実施状況を評価する。

以上

○現地対策本部における主な訓練

| 訓練項目 | 訓練概要 | 訓練内容 |
|--------------|---|---|
| 要員参集訓練 | ○現地対策本部構成員等の参集訓練を実施 | ・現地対策本部構成員及び事故現場指揮所構成員を招集し、現地対策本部及び事故現場指揮所の設置を行う。 |
| 情報共有訓練 | ○機構内での情報共有訓練を実施 ○情報集約及び機構内での情報共有を実施 | ・地震発生後の被災状況、EAL事象の発生状況等について、機構TV会議システムや書画装置を活用した情報共有を行う。 ・現場指揮所から発信される発生事象、事象進展等の情報を集約し、機構内で情報共有を行う。 |
| 応急措置訓練 | ○EAL事象の状況把握及びEAL該当判断を実施 ○EAL事象の進展予測及び応急措置を実施 | ・EAL事象の発生状況を把握し、EAL事象の該当判断を行う。 ・EAL事象の進展を予測し、応急措置の立案・指示を行う。 |
| プレス対応訓練 | ○プレス文作成、模擬記者会見及び機構HP掲載（模擬）を実施 | ・発生事象の内容、応急措置の状況、環境への影響等について、プレス文を作成して、模擬記者会見を行う。また、機構対策本部広報班と連携して機構HPへの掲載（模擬）を行う。 |
| 関係機関への派遣対応訓練 | ○関係機関への派遣（一部模擬を含む）を実施 | ・原子力規制庁緊急時対応センター（ERC）へリエゾンを派遣し、即応センターからの情報提供の補足説明等を行う。 ・オフサイトセンターを模擬した所内へ要員を派遣し、現地対策本部との情報共有を行う。 |

○機構対策本部（原子力施設事態即応センター）における主な訓練

| 訓練項目 | 訓練概要 | 訓練内容 |
|--------------------------------|-------------------------------|--|
| 機構内及びE R Cとの情報共有訓練 | ○機構内及びE R Cの情報共有訓練を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・プラント情報等について、機構T V会議システムや書画装置を活用した機構内の情報共有を行う。 ・機構内から入手するプラント情報等について、統合原子力防災ネットワークを活用したE R Cプラント班との情報共有を行う。 |
| 原子力災害対策支援拠点及び原子力緊急事態支援組織との連携訓練 | ○支援本部及び原子力緊急事態支援組織に対して支援要請を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・原子力災害対策支援拠点として機構本部駐車場の立ち上げを行う。 ・大洗研究所及び檜葉遠隔技術開発センターへ支援要請を行う。 |

○個別訓練

| 訓練項目 | 訓練概要 | 訓練内容 |
|------------|---------------------|--|
| 通報訓練 | ○機構外への通報連絡を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・機構外への通報文等による通報や連絡を行う。 ・警戒事態通報や特定事象通報を実施する。 |
| 避難訓練 | ○大洗研究所内従業員の避難訓練を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・E A L事象の発生を想定し、発災施設を対象とした従業員の避難訓練を行う。 |
| 環境モニタリング訓練 | ○環境モニタリング情報の共有訓練を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境放射線モニタリングポストやモニタリングカー等により、放射線状況及び気象観測の監視を行い、現地対策本部への報告を行う。 |
| 救護訓練 | ○負傷者の救護訓練を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理区域内での負傷者を想定し、被ばく・負傷状況の把握、身体除染、応急処置を行い、医療機関への搬送を行う。（医療機関への搬送は模擬） |

以上

評価チェックリスト（現地対策本部）

確認 A：良好
 B：概ね良好（改善事項あり）
 C：一層の努力が必要
 -：該当なし又は確認できず

(1) 現地対策本部における訓練

【評価者（氏名）】

| 項目 | 評価基準 | 確認 | 評価（良好事例、改善事項等） |
|------------------|--|----|----------------|
| 要員参集訓練 | 危機管理課長は、現地対策本部長を招集し、現地対策本部副本部長は、現地対策本部を設置できること。 | | |
| | 事故現場責任者は、事故現場防護活動要員を招集し、事故現場統括責任者または事故現場責任者は、事故現場指揮所を設置できること。 | | |
| 機構内及び ERC との情報共有 | 現場対応班は、発生事象の状況や進展状況等の情報について、現場から集約し、現地対策本部へ「発生事象状況確認シート」や「事象進展対策シート」等の視覚情報を用いた情報共有ができること。 | | |
| | 事故現場指揮所は、プラント情報等を集約し、「発話ポイント」（報告内容のポイントを整理した発話例）を意識して現地対策本部内に情報共有するとともに、事故現場責任者の指示に従い、応急措置の対応ができること。 【検証項目】 | | |
| | 機構TV会議システムの発話者は、発話の基本方針に即した発話ができること。 | | |
| | 現地対策本部は、事故現場指揮所から発信される発生事象の状況や進展状況等の情報を集約し、「発生事象状況確認シート」や「事象進展対策シート」等の視覚情報を用いて、機構対策本部と情報共有できること。 | | |

| | | | |
|--------------|--|--|--|
| | <p>現地対策本部は、「発話ポイント」(報告内容のポイントを整理した発話例)を意識して、現場からのプラント情報等の集約、機構対策本部への情報共有ができること。【検証項目】</p> | | |
| | <p>現地対策本部は、応急措置の方針等についてブリーフィングを行い、簡潔に機構内で情報共有できること。</p> | | |
| | <p>現地対策本部は、機構対策本部が他拠点と機構TV会議システムを使用している場合において、情報の緊急性を考慮し、緊急時の割込みによる機構TV会議システムを用いた情報共有、またはホットラインを通じた情報共有ができること。【検証項目】</p> | | |
| | <p>現地対策本部のERC対応者は、現地対策本部内の情報の整理・収集を行い、ERCへの情報提供に備えられること。【検証項目】</p> | | |
| | <p>ERCからの質問や機構対策本部からの要請があった場合、またはERCの理解促進のために補足説明等が必要と判断した場合は、災害対策資料等の視覚情報を用いて説明できること。【検証項目】</p> | | |
| 関係機関への派遣対応訓練 | <p>リエゾンは、「災害対策資料」及び即応センターからの情報提供を基に、ERCに対して質疑応答や補足説明を行うことができること。</p> | | |
| | <p>オフサイトセンターを模擬した所内へ要員を派遣し、現地対策本部との情報共有ができること。</p> | | |
| プレス対応訓練 | <p>広報班は、発生したEAL事象ごとに整理し発生事象の内容、応急措置の状況、環境への影響等について、プレス文を作成し、模擬記者会見ができること。</p> | | |
| | <p>広報班は、機構対策本部広報班と連携し、発生事象の内容、環境への影響等を機構HPへ掲載(模擬)できること。</p> | | |

| | | | |
|------------------------|---|--|--|
| 原子力事業所災害対策支援拠点への支援要請訓練 | 現地対策本部長は、機構対策本部へ原子力事業所災害対策支援拠点への支援要請を行い、支援体制を確立することができること。 | | |
| 通報訓練 | F A X作成担当者は、「現地対策本部の活動マニュアル」に基づき、原災法第10条事象及び第15条事象に対して15分以内にF A Xによる通報連絡ができること。 | | |
| 避難訓練 | 発災施設の建家関係者は、事故現場責任者の指示に従い、現場から退出し、安全な場所へ避難することができること。 | | |
| 環境モニタリング訓練 | 放射線管理部センターは、「放射線管理部センター活動手引」に基づいて定期的に環境測定データを報告することができること。 | | |
| 救護訓練 | 防護隊は、「防護隊活動手引」に基づいて負傷者の応急措置から医療機関への搬送（模擬）ができること。 | | |

以上

評価チェックリスト（機構対策本部）

| | |
|----|---|
| 確認 | A：良好 B：概ね良好（改善事項あり） C：一層の努力が必要 -：該当なし又は確認できず |
|----|---|

(1) 機構内及びERCとの情報共有

【評価者（氏名）】

| 項目 | 評価基準 | 確認 | 評価（良好事例、改善事項等あれば記載） |
|------------|--|----|---------------------|
| 機構内の情報共有 | ERC 対応ブースは、現地対策本部からプラント情報、EAL の判断基準、今後の事象進展等に関する情報（ブリーフィング情報を含む）を収集できたか。特に視覚情報（「発生事象状況確認シート」、「事象進展対策シート」等）を収集できたか。 | | |
| | ERC 対応ブースは、複数施設（複数拠点）で事象が発生した場合において、施設（拠点）毎に連絡メモを使い分けるなど、区別して情報を収集できたか。 | | |
| | 機構 TV 会議上で複数拠点から発話のタイミングが重なった場合、情報班長は事象の進展性を踏まえて重要度を考慮し、どちらの拠点の発話を優先するか統制できたか。 | | |
| ERC との情報共有 | 発話者は、ERC に対して応答確認を実施したうえで情報発信できたか。 | | |
| | 発話者は、書画装置を用いて、視覚情報（「発生事象状況確認シート」、「事象進展対策シート」等）を活用して分かりやすい情報発信に努めていたか。 | | |
| | 発話者は、複数施設（複数拠点）で事象が発生した場合において、施設名（拠点名）を発話したうえで情報発信できたか。（検証項目） | | |
| | 発話者は、EAL 事象を説明する際、判断時刻、判断根拠も含めて情報発信できたか。 | | |
| | ERC 対応ブースは、Q&A 管理表を活用して、質問に対して漏れなく回答でき | | |

| | | | |
|--|---|--|--|
| | たか。 | | |
| | ERC 対応ブースは、通信機器に支障が発生した際（マルファンクション含む）、速やかに復旧又は代替手段を活用できたか。 | | |
| | ERC 対応ブースは、統括者の指示のもと拠点への情報収集及び ERC への情報発信が実施できたか。 | | |
| | <p>発話者は、発話ポイントを意識した情報発信が行えたか。（検証項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生事象、現在のプラントの状況、線量の状況等の現況 ・発生事象により懸念される事項、事故の進展予測（環境に与える影響含む） ・事故の進展予測を踏まえた事故収束に向けた対策の優先順位、完了の時間的見通し ・事故収束に向けた対応戦略の進捗状況 | | |

(2) 原子力事業所災害対策支援拠点及び原子力緊急事態支援組織との連携訓練

【評価者（氏名）】

| 項目 | 評価基準 | 確認 | 評価（良好事例、改善事項等あれば記載） |
|---------------------|--|----|---------------------|
| 支援要請 | 支援班は、現地対策本部からの依頼をもとに、大洗研究所及び櫛葉遠隔技術開発センターに対して、原子力事業所災害対策支援拠点を經由して発災拠点へ資機材等を派遣するよう支援要請ができたか。 | | |
| 原子力事業所災害対策支援拠点の立ち上げ | 支援班は、原子力事業所災害対策支援拠点として機構本部駐車場を立ち上げ、資機材の一時的な受入れを実施できたか。 | | |
| 機構内の情報共有 | 支援班は、資機材等の準備状況（到着予定時刻）について、機構内に機構 TV 会議システムを用いて情報共有できたか。 | | |

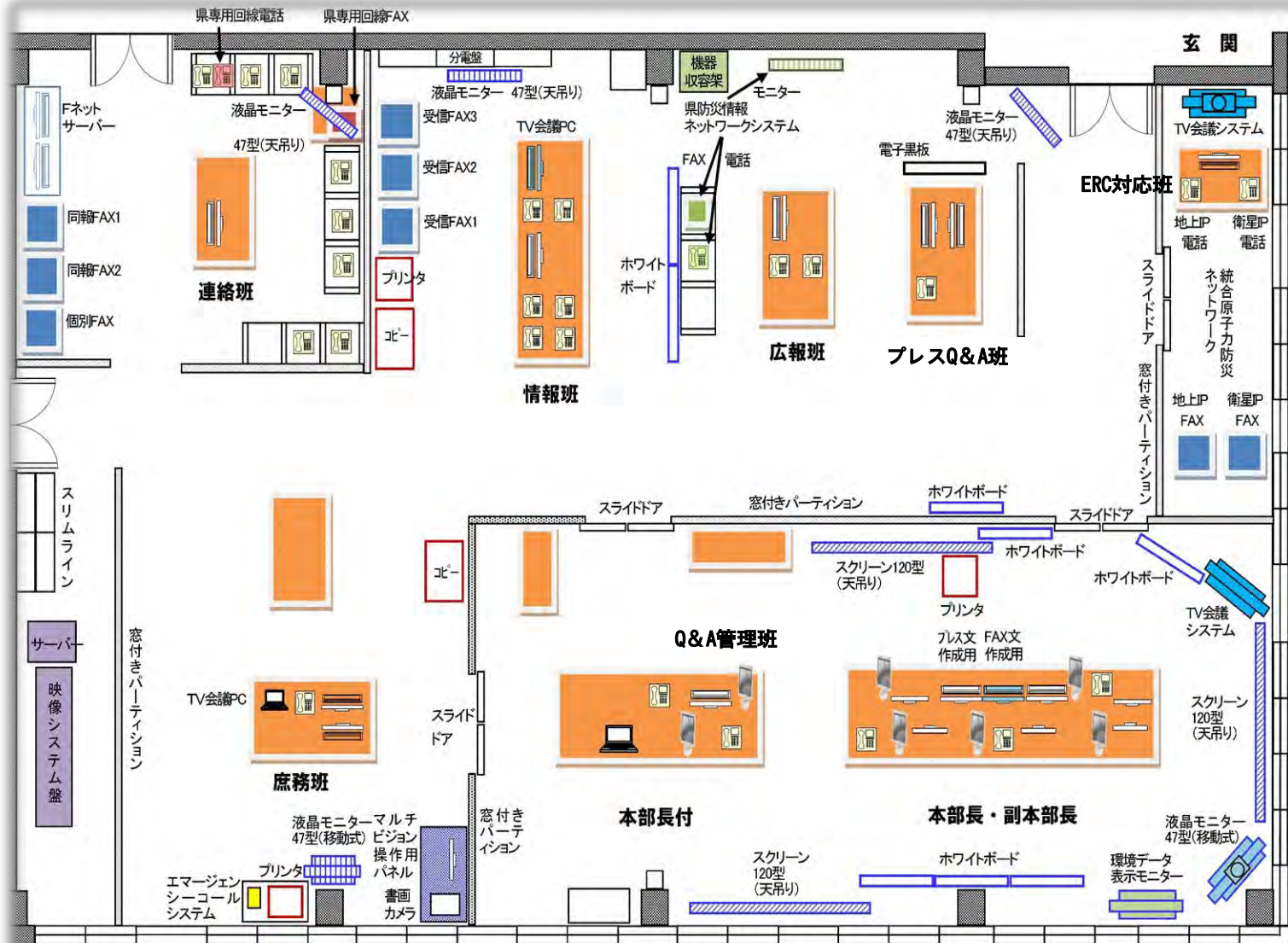
令和4年度 原子力科学研究所 原子力防災訓練 課題チェックリスト

| | | 昨年度訓練において抽出した改善点 | 評価欄 | | | 評価担当 |
|----------------------------|------|---|--------|--|---|------|
| | | | 確認箇所 | 有効性の評価基準 | 確認結果 | |
| 現 地 対 策 本 部 | No.1 | <p><問題点> 現地対策本部内の情報共有(本部長指示を含む)に重要な時系列情報の記録が適時適確にできなかった。これにより、関係機関等へのFAX通報文作成及び確認にも時間を要するとともに通報内容の修正が必要となった。</p> <p><課題> 機構TV会議システムを通じて提供される情報及び本部長の指示の時系列情報への記録が適時適確にできなかった。</p> <p><原因> 機構TV会議システムを通じて提供される情報や現地対策本部長等から各班及び事故現場指揮所への指示(回答)については、本部長付から庶務班(時系列作成担当)へ伝達し、記録することになっていたが、2施設の時系列を作成するには対応人数が不足していたため、情報を整理して記録することができなかった。</p> <p><対策> TV会議システムを通じて提供される情報や現地対策本部長等から各班及び事故現場指揮所への指示(回答)を庶務班(時系列作成担当)に伝達する本部長付を時系列担当として増員した。</p> | 現地対策本部 | 現地対策本部内の情報共有(本部長指示を含む)に重要な時系列情報の記録が適時適確にできた。 | 実績: 確認結果【 】 良好な点 改善を要する点 | |
| | No.2 | <p><問題点> 訓練中に最後となる通報文を発信した際、誤記や資料の抜けがあり訂正して再送を行ったが、どこをどのように訂正したのか分かりづらかった。また、受信側へ着信確認を実施しなかった。</p> <p><課題> 最終報の通報文の内容を訂正する際及び再送信する際の対応が不十分であった。</p> <p><原因> 最終報の通報文の内容を訂正する場合の修正ルール及び再送信する場合の着信確認について「現地対策本部の活動マニュアル」で明確化できていなかった。</p> <p><対策> ①「現地対策本部の活動マニュアル」を改正し、最終報での通報文の内容を訂正する場合は次報にて訂正内容及び修正箇所を明記することをルール化した。 ②「現地対策本部の活動マニュアル」を改正し、再送信した場合に着信確認を行うことをルール化した。</p> | 現地対策本部 | ・改正された「現地対策本部の活動マニュアル」に、最終報での通報文の内容を訂正する場合に次報にて訂正内容及び修正箇所を明記すること、及び再送信した場合に着信確認を実施することが明記された。なお、以上の対応について、要素訓練実施結果により確認できた。 | 実績: 確認結果【 】 良好な点 改善を要する点 | |
| 機 構 対 策 本 部 | No.1 | <p><問題点> 原子力施設事態即応センターからERCに対して、「事象進展対策シート」を活用して対策の実施状況を説明していく中で、現在どのような状況なのかをERCへ説明できていない場面があった。</p> <p><課題> 現場で実施している対策の実施状況をタイムリーにERCに対して情報共有できていない。</p> <p><原因> ①現状の「事象進展対策シート」では“現場への移動時間”など、作業内容を網羅した記載になっていない箇所があったため、その間、作業が進捗していないような印象を与えてしまった。 ②前の作業終了と次の作業開始との間に時間を要しており、一時的に作業の進捗が把握できていない状況となったが、現地対策本部や機構対策本部から現場での作業状況について問い合わせを行わなかった。</p> <p><対策> ①計画に基づいて現在どのような作業を実施しているか関係箇所共通認識が図れるように、作業内容を網羅した記載となるよう「事象進展対策シート」を見直す。 ②「事象進展対策シート」の計画(予定時間)どおりに作業が進んでいないと認知した段階で、現地対策本部情報統括者から事故現場指揮所に現在の状況について機構TV会議システム上で確認を行う。機構対策本部情報班長においても現地対策本部の対応をフォローする。これらのルール化を行う。</p> | 機構対策本部 | ・見直された「事象進展対策シート」を活用し、ERCに対して対策の実施状況をタイムリーに提供できた。 ・「事象進展対策シート」の計画どおりに作業が進んでいない場合において、現地対策本部情報統括者又は機構対策本部情報班長から、機構TV会議システム上で進捗の確認を実施できた。 | 実績: 確認結果【 】 良好な点 改善を要する点 | |

確認結果【 】は、実施できた場合はA、ある程度できた場合はB、実施できていない場合はCを記載する。

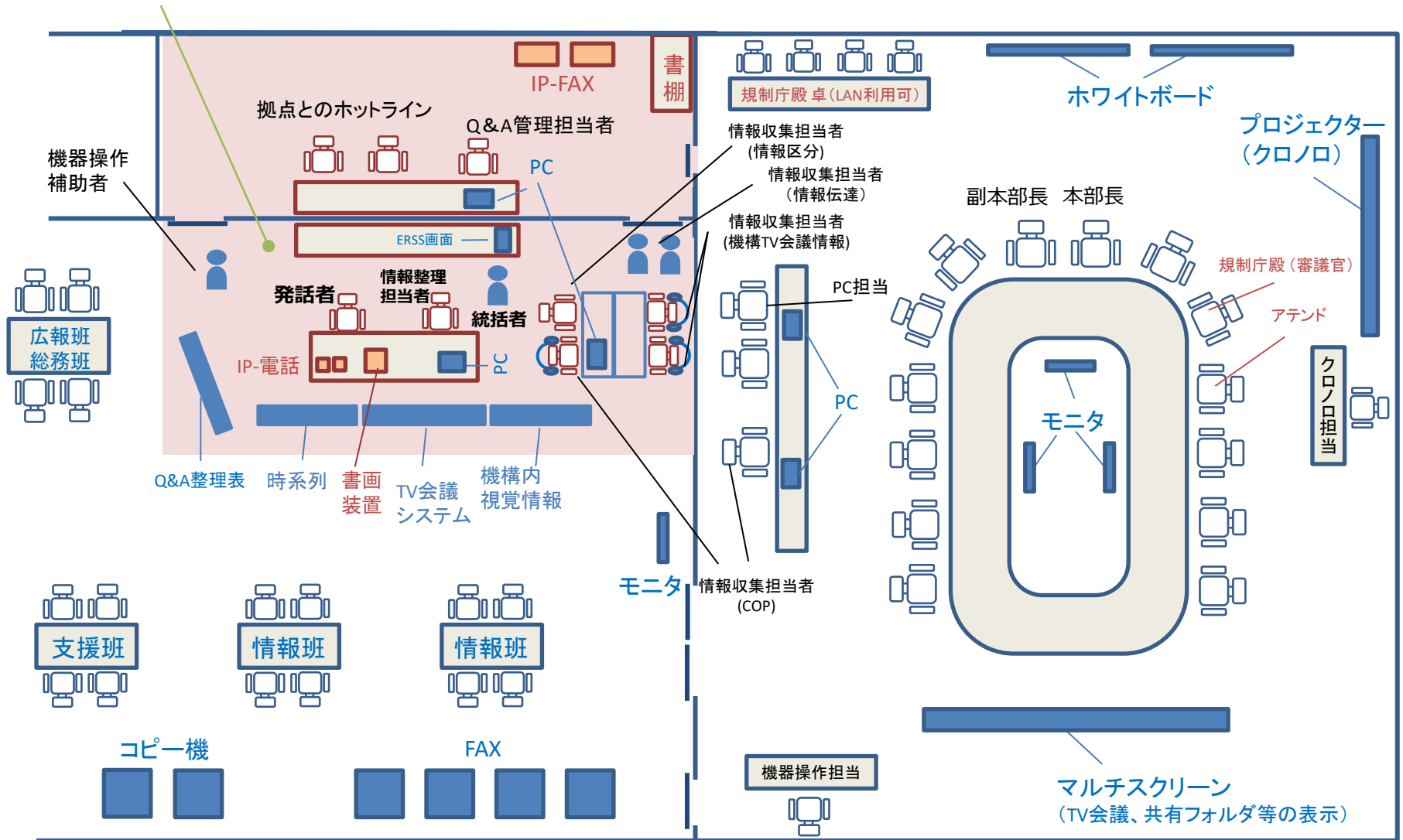
シナリオ関係（P25～P44）は
マスクングのため省略

原子力科学研究所現地対策本部 緊急時対策所のレイアウト



機構対策本部（即応センター）のレイアウト

ERC対応ブース



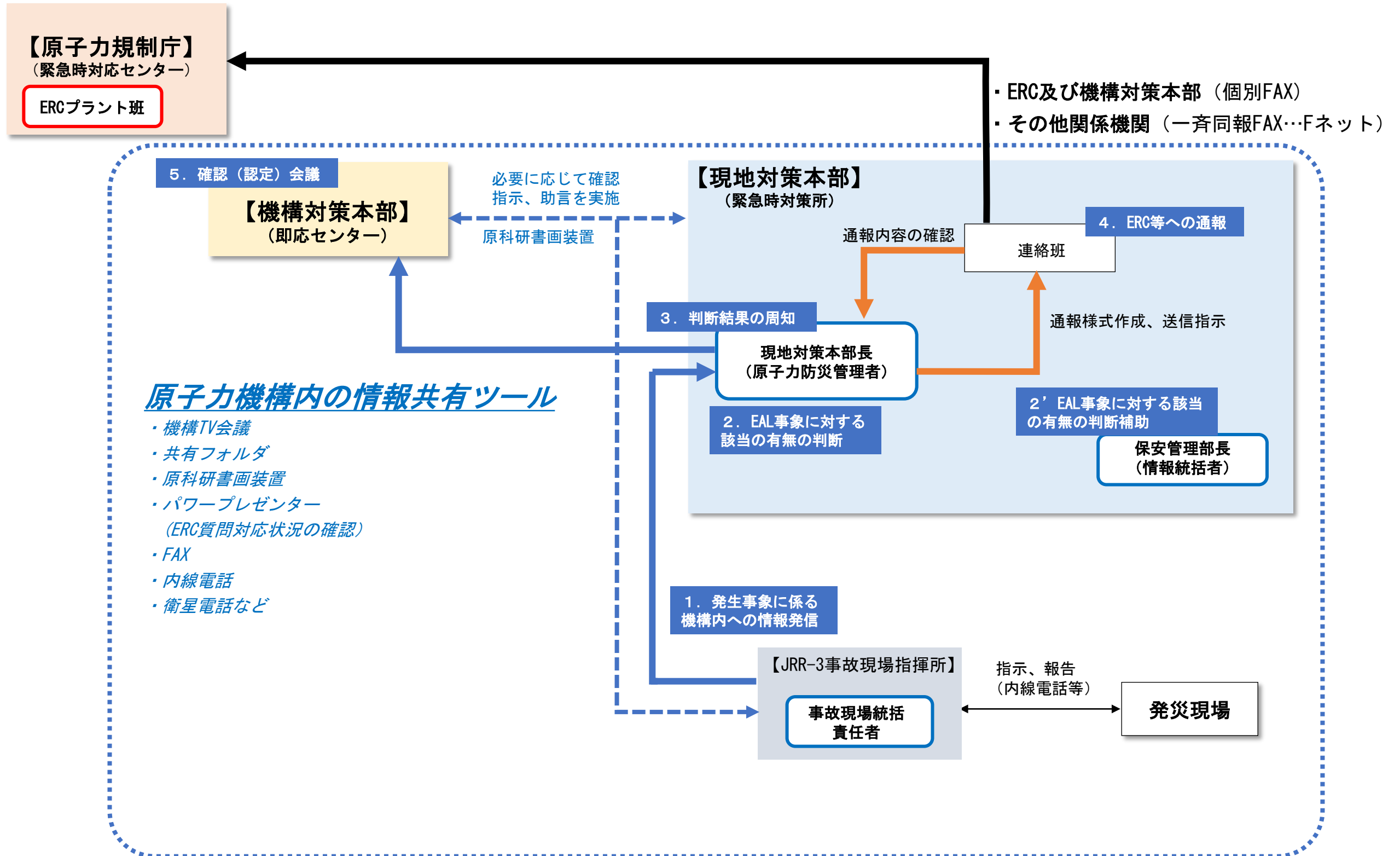
※ERC対応ブース内の配置については変更になる可能性がある。

JAEA情報提供フロー

令和4年12月

原子力科学研究所

原子力科学研究所 情報提供フロー



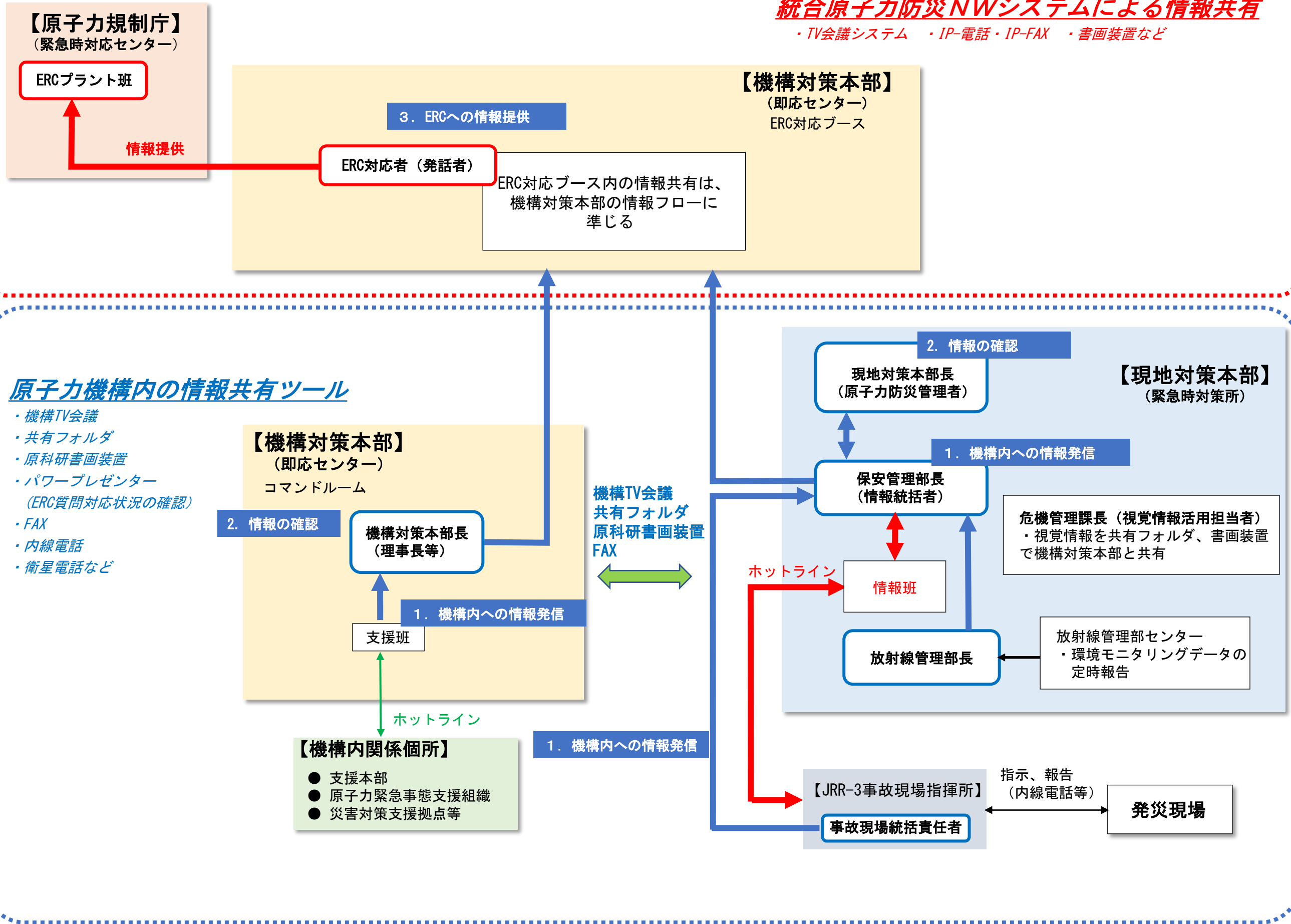
情報提供フロー (①EALに関する情報)

情報提供フロー（①EALに関する情報）

| 実施内容 | 1. 発生事象に係る機構内への情報発信 | 2. EAL事象への該当の有無の判断 | 2' EAL事象への該当の有無の判断補助 | 3. 判断結果の周知 | 4. ERC等への通報 | 5. 確認(認定)会議 |
|------|--|---|---|---|--|--|
| 実施者 | JRR-3 事故現場指揮所 | 現地対策本部 | 現地対策本部 | 現地対策本部 | 現地対策本部 | 機構対策本部 |
| | 事故現場統括責任者 | 現地対策本部長 (原子力防災管理者) | 保安管理部長 (情報統括者) | 現地対策本部長 (原子力防災管理者) | 連絡班 | 機構対策本部 副本部長 |
| 時期 | 事象確認後、直ちに | 判断に必要な情報入手後、直ちに | 随時 | 判断後、直ちに | EAL事象判断後、15分以内 | 会議開催の都度 |
| 方法 | ・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX (視覚情報の共有) | ・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・原科研書画装置 (視覚情報の共有) | ・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・原科研書画装置 (視覚情報の共有) | ・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・原科研書画装置 (視覚情報の共有) | 通報様式を作成しFAXによる送信 | 統合防災NW ・TV会議 ・書画装置等 |
| 主な資料 | ・JRR-3通報様式 ・JRR-3発生事象状況確認シート ・JRR-3概略系統図 | ・JRR-3通報様式 ・JRR-3発生事象状況確認シート ・JRR-3概略系統図 | ・JRR-3通報様式 ・JRR-3発生事象状況確認シート ・JRR-3概略系統図 | ・JRR-3通報様式 ・JRR-3発生事象状況確認シート ・JRR-3概略系統図 | ・JRR-3通報様式 ・JRR-3発生事象状況確認シート ・JRR-3概略系統図 | ・JRR-3通報様式 ・JRR-3発生事象状況確認シート ・JRR-3概略系統図 |
| 備考 | | | EAL判断における現地対策本部長のサポートを実施する | | 送信前に現地対策本部内で内容を確認 | |

統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム ・IP-電話 ・IP-FAX ・書画装置など



情報提供フロー（②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況）

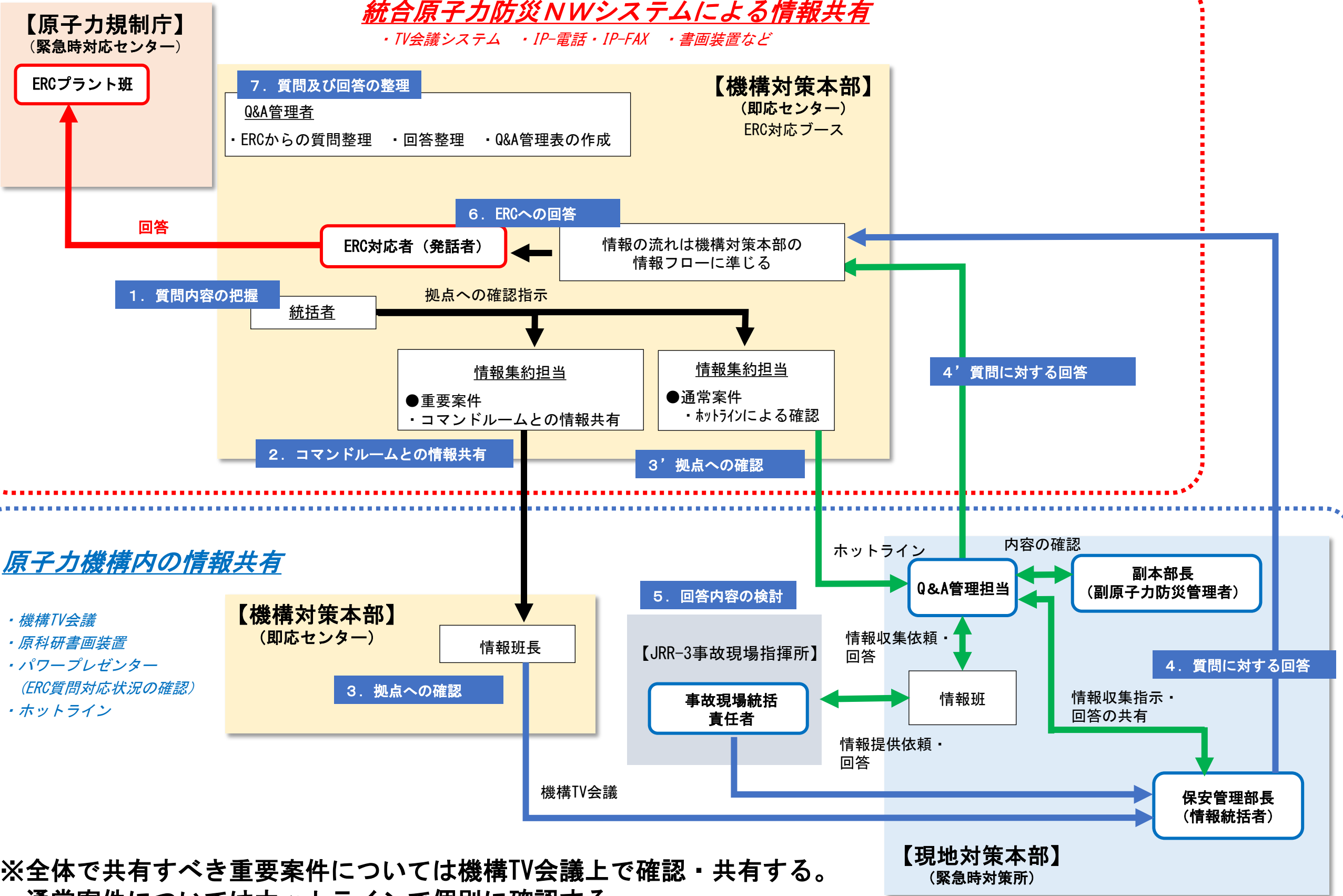
②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況

| 実施内容 | 1. 発生事象及びその対応に係る機構内への情報発信 | | | 2. 情報の確認 | | 3. ERCへの情報提供 | |
|------|---|---|--|---|--|---|--|
| | JRR-3に関する情報 | 研究所に関する情報 | 後方支援拠点等に関する情報 | 発災施設、研究所に関する情報 | 後方支援拠点等に関する情報 | | |
| 実施者 | JRR-3 事故現場指揮所 | 現地対策本部 | 機構対策本部 | 現地対策本部 | 機構対策本部 | 機構対策本部 | |
| | 事故現場 統括責任者 | 保安全管理部長 (情報統括者) | 支援班長 | 現地対策本部長 (原子力防災管理者) | 機構対策本部長 | ERC対応ブース ERC対応者 | |
| 時期 | 事象確認後、速やかに | 情報を入手後、速やかに | 情報を入手後、速やかに | 情報を入手後、速やかに | 情報を入手後、速やかに | 情報を入手後、速やかに | |
| 方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・電話(ホットライン) | <ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・原科研書画装置(視覚情報の共有) ・情報班経由(ホットライン) | <ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・原科研書画装置(視覚情報の共有) | <ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 | <ul style="list-style-type: none"> 統合防災NW ・TV会議 ・書画装置等 | |
| 主な資料 | 事故・プラントの状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・通報様式(7-1) ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート | <ul style="list-style-type: none"> ・通報様式(7-1) ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート | <ul style="list-style-type: none"> ・資機材リスト及び派遣要員リスト等 | <ul style="list-style-type: none"> ・通報様式(7-1) ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・プラントデータ ・概略系統図 ・放管データ | <ul style="list-style-type: none"> ・資機材リスト及び派遣要員リスト等 | <ul style="list-style-type: none"> ・通報様式(7-1) ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・プラントデータ ・概略系統図 ・放管データ |
| | 事故収束対応戦略 | <ul style="list-style-type: none"> ・JRR-3プラントデータ ・JRR-3概略系統図 ・放管データ | <ul style="list-style-type: none"> ・プラントデータ ・概略系統図 ・放管データ | | | | |
| | 戦略の進捗状況 | | | | | | |
| 備考 | 視覚情報はFAX又は共有フォルダで現地対策本部へ送付 | 視覚情報は共有フォルダで即応センターと共有 | | 情報の了承を行う 疑義があれば再確認を促す | | | |

※ COPの流れについては情報提供フロー⑩を参照

統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム ・IP-電話 ・IP-FAX ・書画装置など



※全体で共有すべき重要案件については機構TV会議上で確認・共有する。
通常案件についてはホットラインで個別に確認する。

情報提供フロー (⑤ERCプラント班からの質問への回答)

⑤ERCプラント班からの質問への回答

| 実施内容 | 1. 質問内容の把握(重要案件と通常案件への分類) | 2. コマンドルームとの情報共有 | 3. 拠点への確認 | 3' 拠点への確認 | 4. 質問に対する回答 | 4' 質問に対する回答 | 5. 回答内容の検討 | 6. ERCへの回答 | 7. 質問及び回答の整理 |
|------|--|------------------|---|---|--|--|--|--|--|
| 実施者 | 機構対策本部 | 機構対策本部 | 機構対策本部 | 機構対策本部 | 現地対策本部 | 現地対策本部 | 事故現場指揮所 | 機構対策本部 | 機構対策本部 |
| | ERC対応ブース統括者 | ERC対応ブース情報集約担当 | 情報班長 | ERC対応ブース情報集約担当 | 保安管理部長(情報統括者) | 情報班Q&A管理担当 | 事故現場統括責任者 | ERC対応ブースERC対応者 | ERC対応ブースQ&A管理者 |
| 時期 | 質問を入手後、速やかに | 質問を入手後、速やかに | 質問を入手後、速やかに | 質問を入手後、速やかに | 速やかに | 速やかに | 質問を入手後、速やかに | 速やかに | 質問入手又は回答の都度 |
| 方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・パワープレゼンター ・機構TV会議 ・共有フォルダ ・画像配信システム(視覚情報の共有) | — | <ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 ・パワープレゼンター (ERC質問対応状況の確認) | <ul style="list-style-type: none"> ・ホットライン ・パワープレゼンター (ERC質問対応状況の確認) | <ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 ・原科研書画装置(視覚情報の共有) | <ul style="list-style-type: none"> ・ホットライン ・共有フォルダ | <ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 ・ホットライン | <ul style="list-style-type: none"> ・統合防災NWシステム ・TV会議 ・書画装置等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ERCブース内での画面表示 ・共有フォルダ ・パワープレゼンター(画面共有機能)等 |
| 主な資料 | — | — | — | — | — | — | — | — | ・Q&A管理表 |
| 備考 | ERC対応者(現地対策本部を含む)は可能な範囲で即答 即答できない場合は「3. 拠点への確認」へ | | | | 可能な範囲で即答 即答できない場合は「5. 回答内容の検討」へ | 可能な範囲で即答 即答できない場合は「5. 回答内容の検討」へ | | | Q&A管理表を現地対策本部と共有する |

【原子力規制庁】
(緊急時対応センター)



統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム

3. ブリーフィング内容の提供

【機構対策本部】

(即応センター)

ERC対応ブース

ERC対応ブース内の情報共有は、
機構対策本部の情報フローに
準じる

ERC対応者 (発話者)

原子力機構内の情報共有

・機構TV会議

【現地対策本部】

(緊急時対策所)

1. ブリーフィングの実施連絡

保安管理部長
(情報統括者)

危機管理課長
(視覚情報活用担当者)

2. ブリーフィングの実施

補足情報の提供

【事故現場指揮所】

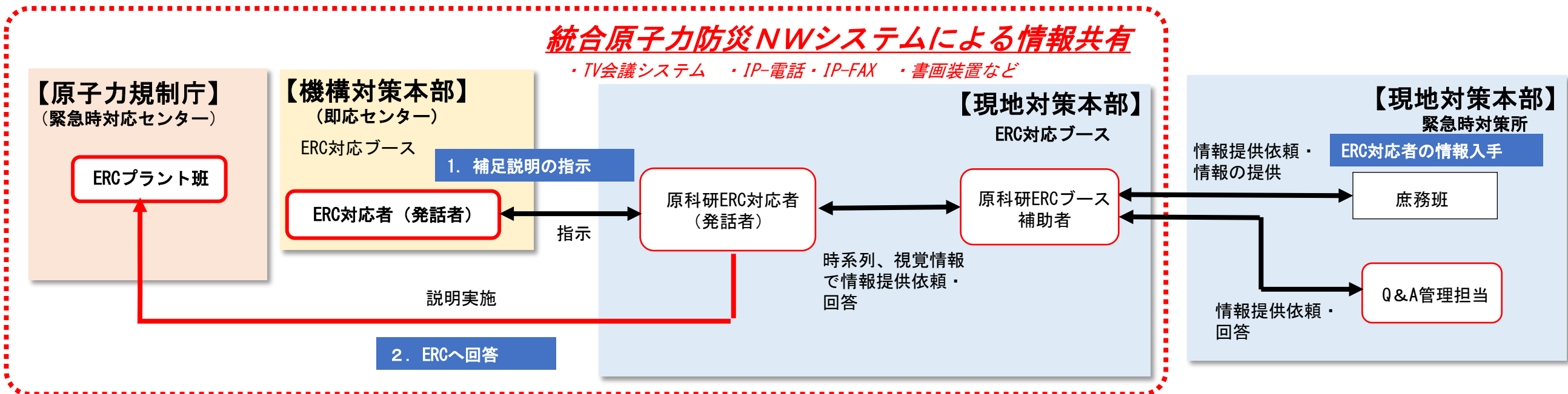
事故現場統括責任者

| 実施内容 | 1. ブリーフィングの実施連絡 | 2. ブリーフィングの実施 | (補足情報の提供) | 3. ブリーフィング内容の提供 |
|------|-----------------------------|---|---------------------------------|-----------------------------------|
| 実施者 | 現地対策本部 保安管理部長 (情報統括者) | 現地対策本部 危機管理課長 (視覚情報活用担当者) | JRR-3事故現場指揮所 事故現場統括責任者 | 機構対策本部 ERC対応ブース ERC対応者 |
| 時期 | 情報がある程度まとまったタイミング | 情報がある程度まとまったタイミング | 必要の都度 | 情報を入手後、速やかに |
| 方法 | ・機構TV会議による発話 | ・機構TV会議による発話 ・原科研書画装置による視覚情報 | ・機構TV会議による発話 ・原科研書画装置による視覚情報 | 統合防災NWシステム ・TV会議システム ・書画装置等 |
| 主な資料 | — | ・事象進展対策シート ・発生事象状況確認シート | ・事象進展対策シート ・発生事象状況確認シート | ・事象進展対策シート ・発生事象状況確認シート |
| 備考 | ブリーフィング開始する旨、事前に周知を行う | 「開始」、「終了」の宣言を行う。 これまでの情報を整理し、事象の 状況、進展、対策について情報共有を行う。 | 事象の進展予測、応急措置等について発話する。 | |

情報提供フロー (⑥ブリーフィングの実施)

統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム ・IP-電話・IP-FAX ・書画装置など



| 実施内容 | ERC対応者の情報入手 | 1. 補足説明の指示 | 2. ERCへ回答 |
|------|--|-----------------------------------|-----------------------------------|
| | 現地対策本部 | 機構対策本部 | 現地対策本部 |
| 実施者 | 原科研ERC対応ブース 原科研ERCブース補助者 庶務班、Q&A管理担当 | ERC対応ブース ERC対応者 | 原科研ERC対応ブース 原科研ERC対応者(発話者) |
| 時期 | 常時 | 必要の都度 | 速やかに |
| 方法 | ・時系列 ・視覚情報 ・機構TV会議 | 統合防災NWシステム ・TV会議システム ・書画装置等 | 統合防災NWシステム ・TV会議システム ・書画装置等 |
| 主な資料 | ・通報様式(7-1) ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・JRR-3プラントデータ ・JRR-3概略系統図 ・放管データ | — | — |
| 備考 | | | |

情報提供フロー (⑦機構対策本部ERC対応者が説明答困難な場合の対応)

統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム ・IP-電話・IP-FAX ・書画装置など

【原子力規制庁】 (緊急時対応センター)

ERCプラント班

情報提供

【機構対策本部】 (即応センター)

ERC対応ブース

4. ERCへの情報提供

ERC対応者 (発話者)

ERC対応ブース内の情報共有は、
機構対策本部の情報フローに
準じる

原子力機構内の情報共有ツール

・機構TV会議・共有フォルダ・原科研書画装置・FAX

【現地対策本部】 (緊急時対策所)

保安全管理部長
(情報統括者)

3. 情報の確認

2. COPの情報発信

情報共有

1. 情報提供

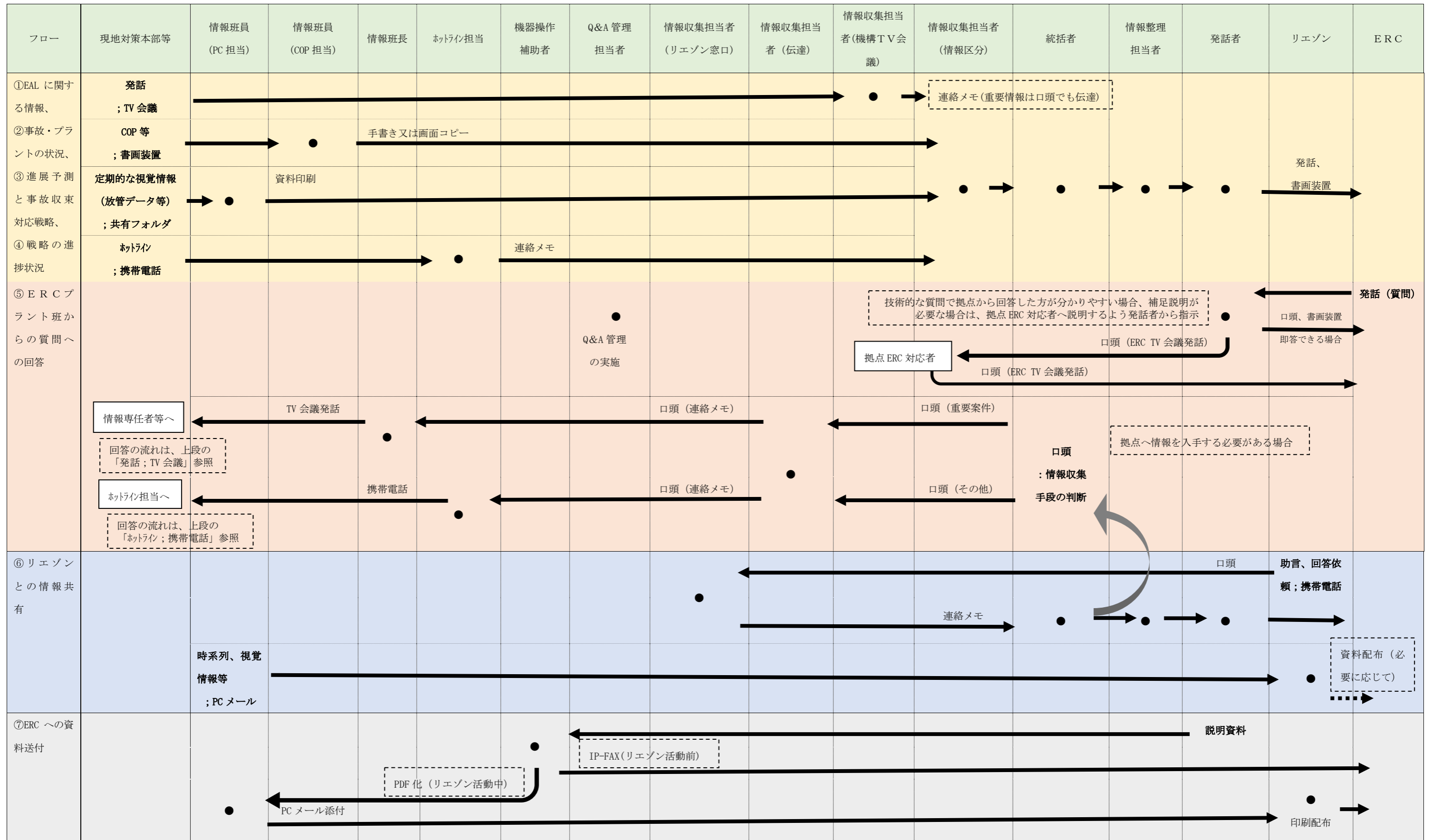
事故現場
指揮所

事故現場説明要員

| 実施内容 | 1. 情報提供 | 2. COPの情報発信 | 3. 情報の確認 | 4. ERCへの情報提供 |
|------|--|--|--|--|
| 実施者 | 事故現場指揮所 担当者 | 現地対策本部 事故現場説明要員 | 現地対策本部 保安全管理部長 (情報統括者) | 機構対策本部 ERC対応ブース ERC対応者 |
| 時期 | 情報を入手後、速やかに | 情報を入手後、速やかに | 情報を入手後、速やかに | 情報を入手後、速やかに |
| 方法 | ・内線電話 ・共有フォルダ | ・機構TV会議 ・原科研書画装置 (視覚情報の共有) | ・機構TV会議 ・原科研書画装置 (視覚情報の共有) | 統合防災NW ・TV会議 ・書画装置等 |
| 主な資料 | ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・JRR-3プラントデータ ・JRR-3概略系統図 ・放管データ | ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・JRR-3プラントデータ ・JRR-3概略系統図 ・放管データ | ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・JRR-3プラントデータ ・JRR-3概略系統図 ・放管データ | ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・JRR-3プラントデータ ・JRR-3概略系統図 ・放管データ |
| 備考 | | | 情報の了承を行う 疑義があれば再確認を促す | |

情報提供フロー (⑧COPの流れ)

即応センター；機構対策本部の情報フロー



原子力事業者防災業務計画の継続的改善スケジュール（PDCA） 原子力科学研究所

| PDCA | 実施事項 | 令和4年度 | | | | | | | | | | | | 令和5年度 | | 備考 | | |
|-------------|-------------------------|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|-------|----|----|----------|---|
| | | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | | 5月～ | |
| CHECK | ○R3年度訓練報告書（原子力科学研究所） | | | | ▼ | | | | | | | | | | | | | |
| ACTION | ○改善策の具体化 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ①原子力防災業務計画の改定 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・原子力科学研究所独自のEAL番号を設定 | | ▼ | | | | | | | | | | | | | | 4/1改定 | |
| | ・所外通報連絡先の見直し | | | ■ | | ▼ | | | | | | | | | | | 7/8改定 | |
| | ・EALの見直し | | | | | | | | | | | | | | | ▽ | 5/20改定予定 | |
| | ②マニュアルの改訂 | | | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | ▽ | | | 1/13改定予定 | |
| | ○中期計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・原子力科学研究所中期計画の単年度評価、見直し | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○教育訓練 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・防災教育 | | | ▼ | | | | | | | | | | ▽ | | | | |
| ・要素訓練 | | | | | | | | | | | | | ■ | ■ | | | | |
| ○他事業者訓練等の視察 | | | | | | | | | | | ▼ | | | | | | 川内原発 | |
| PLAN | ○R4年度訓練計画策定 | | | | | | | | | | | | ▼ | | | | | |
| DO | ○R4年度訓練実施 | | | | | | | | | | | | | | ▽ | | 2/21予定 | |
| CHECK | ○個別訓練（支援組織との連携訓練（実動）） | | | | | | | | | | | ▼ | | | | | | |
| | ○訓練計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | ■ | ■ | |
| | ・対策の有効性評価 | | | | | | | | | | | | | | | ■ | ■ | |
| | ・パンチリスト対応 | | | | | | | | | | | | | | | ■ | ■ | |
| ACTION | ・課題の抽出、原因分析、対策検討 | | | | | | | | | | | | | | | ■ | ■ | |
| | ○改善策の具体化 | | | | | | | | | | | | | | | | ■ | ■ |
| | ○中期計画の単年度評価、見直し | | | | | | | | | | | | | | | | ■ | ■ |
| | ○教育、訓練の実施 | | | | | | | | | | | | | | | | ■ | ■ |

原子力事業者防災訓練の継続的改善スケジュール（PDCA） 機構本部

| | 実施事項 | R4年 | | | | | | R5年 | | | | | 備考 | | |
|-----------------|----------------------------------|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|------|---------------------|-----|
| | | ～6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | | 5月～ | |
| CHECK | ○R3年度訓練報告書（各拠点） | ■ | | | | | | | | | | | | | |
| ACTION | ○改善策の具体化 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ①前年度課題の整理 拠点への水平展開 | ▼ | | | | | | | | | | | | 5/18担当課長会議開催 | |
| | ②マニュアル改訂 | ▼ | | | | | | | | | | | | 5/18 | |
| | ③災害対策資料に係る勉強会 | | | | ▼ | ▼ | | ▼ | ▽ | ▽ | | | | 拠点と連動して実施 | |
| | ○中期計画 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・各拠点訓練中期計画単年度評価の取りまとめ 機構大中期計画の策定 | ▼ | | | | | | | | | | | | 6/10 | |
| | ・機構対策本部中期計画の単年度評価 策定 | | | ▼ | | | | | | | | | | 8/2 | |
| | ○教育訓練 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・防災教育 | | | | ▼ | | | | | | | | | | 9/6 |
| | ・情報共有訓練 | | | | ■ | | | | | | | | | 拠点と連動して実施 | |
| ○他事業者訓練等の視察 | | | | ■ | | | | | | | | | 随時実施 | | |
| PLAN | ○R4年度訓練計画策定（各拠点） | | ■ | | | | | | | | | | | 拠点と連動して実施 | |
| DO | ○R4年度訓練実施 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・新世代炉原型炉ふげん | | | | ▼ | | | | | | | | | 9/20 | |
| | ・人形環境技術センター | | | | | ▼ | | | | | | | | 10/21 | |
| | ・大洗研究所 | | | | | | | ▼ | | | | | | 12/20 | |
| | ・高速増速炉もんじゅ | | | | | | | | ▽ | | | | | 1/24 | |
| | ・原子力科学研究所 核燃料サイクル工学研究所 | | | | | | | | | ▽ | | | | 2/21 | |
| | ○個別訓練 | | | | | | | | | | | | | | |
| ・支援組織との連携訓練（実働） | | | | | | ▼ | ▼ | | | | | | | 10/28（敦賀）、11/18（茨城） | |
| CHECK | ○訓練評価 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・自己評価 | | | | | ■ | | | | | | | | | |
| | ・対策の有効性評価 | | | | | ■ | | | | | | | | | |
| | ・ハンチリスト対応（課題の抽出、原因分析、対策策定） | | | | | ■ | | | | | | | | | |
| ACTION | ○改善策の具体化 | | | | | | | | | | | ■ | | | |
| | ○中期計画の単年度評価 見直し | | | | | | | | | | | | ■ | | |
| | ○教育、訓練の実施 | | | | | | | | | | | | ■ | | |

統合原子力防災ネットワークのTV会議における発話ポイント（即応センターERC対応者）

原子力災害発生時において、政府は住民避難を行わせる必要があるか否かの判断が求められる。このため、即応センターである機構本部はERC プラント班に対して、原子力施設の事故の現状のみならず、事故の進展予測、収束対応戦略、その進捗状況といった情報を迅速かつ正確に提供することに努める。

○下記情報を、COP等を用い視覚的に分かりやすく情報共有すること

○仮に拠点においてCOPが更新されていない場合でも、手元にあるCOPに手書きで記載すること等により情報共有すること

| 報告内容 | 発話例 |
|--|--|
| <p>①事故・施設の現状</p> <p style="text-align: right;">発話例</p> | <p>●発生事象、現在のプラントの状況、線量の状況等の現況に係る速やかな情報共有 （情報例）事象発生前の状況、発生した事象（事故）の概要、現状設備の稼働状況 （運転中、待機中、使用不可等の別）等</p> <p>・外部電源は喪失中、非常用発電設備は遮断器故障により起動不可。 ・バックアップ手段の可搬式発電機は、現在設備の健全性を確認中。準備から約15分で起動可能。</p> |
| <p>②事故の進展予測と収束対応戦略</p> <p style="text-align: right;">発話例</p> | <p>●発生事象により何が懸念され、今後何時間でどのような状態に至るのかといった事故の進展予測についての情報共有 （情報例）原子炉水位の低下予測、環境に対する影響の予測、発出が想定されるEALの内容（予想時間）等</p> <p>●進展予測を踏まえ、事故収束に向けどのような対応策を講じることとし、各対応策の優先順位、完了の時間的見通しといった収束対応戦略に係る情報共有 （情報例）戦略の内容、戦略の優先順位（二の矢・三の矢、戦略に用いる対象設備と準備着手・完了予定時刻等）等</p> <p>・現在、炉心冷却機能が喪失しており、炉心損傷予測時間は**:**、EAL**になると見込まれる。 ・HAW廃液貯槽の温度上昇により希ガスが発生し、施設外へ影響を及ぼす可能性があるが、収束対応戦略に影響なし。 ・A系の余熱除去ポンプは故障で起動不能（原因調査中）。可搬式ポンプによる代替注水作業の準備を行い、あと**分程度で炉心冷却を再開予定。</p> |
| <p>③戦略の進捗状況</p> <p style="text-align: right;">発話例</p> | <p>●事故収束に向けた対応戦略の進捗状況に係る情報共有 （情報例）各戦略の進捗状況、対象設備の状況（準備着手時刻の実績、所要時間、完了（予定）時刻）等</p> <p>・建屋亀裂箇所へのシート養生の実施に向けて、資機材の準備を**:**に開始。 ・臨界収束措置としてGd溶液を貯槽へ移送する作業を実施中。〇〇分後（**:**頃）に完了予定。</p> |